

(二) 同志社女子大学史料室開設

一八七六年十月二十四日、米国伝道会日本派遣独身婦人宣教師の一人、スタークウエザー女史(Miss Alice Jeannette Starkweather)が京都御苑内旧柳原前光邸に女子塾を開いた。これが今日の同志社女子大学の前身である。

一九九四年十月二十四日、この開校記念日に同志社女子大学史料室は開設された。

この開室を記念して、同日、同志社女子大学では礼拝時に開室記念礼拝が挙行された。同じ米国伝道会の婦人宣教師によって建てられた学校ということで共通の話題も少なくない神戸女学院史料室にとつて、これは殊のほか慶ばしくたのもしいことであり、お知らせをいただいた当史料室は心からこの開室を祝して、礼拝式に出席させていただいた。

礼拝では、史料室を担当される坂本清音先生が「同志社女学校の創設―アメリカ婦人の祈りに支えられて―」と題してお話になった。史料室展示品の中の二点を取り上げて開校当時の様子を語り、この学校が今日あるのはアメリカ婦人の募金と祈りのおかげであることを心に留めて同志社精神をもう一度改めて考え直そう、と話を結ばれた。

礼拝のあと史料室の展示室を見せていただいた。同志社女子大学今出川キャンパスにある頌美館の一、二階を占める史料室は、一階に展示室二室を持ち、二階は事務室と倉庫になっている。展示室の方は当分の間期間を限っての公開である。第一展示室は主に書簡や書類といった史料類の展示に当てられている。入口左側の壁面には明治期の同志社女学校の校長・教職員の一覧表を掲げ、三方の壁ぎわには史料を展示したガラスケースがある。第二展示室は、永年同志社女学校で教鞭を取り、戦時中も日本に残った米国伝道会の婦人宣教師デントン女史(Miss Mary Florence Denton, 1857-1947)の遺品の展示場で、女史愛用の家具・陶器類が四方の壁ぎわに並べられ、部屋中央に置かれたガラスケースの中には女史自筆の備忘録や訪問者記録帳などが展示されている。部屋毎にテーマをしぼっているの、見やすくなりやすい展示であった。

同志社女子大学史料室は、宮澤正典先生、坂本清音先生、鴛淵^{むすぶ}紹子先生、宮本義信先生によって運営される。(寺西 裕加恵)